

⑩実用新案公報

④公告 昭和47年(1972) 2月15日

(全2頁)

1

⑤高さ調節を可能にした枕

①実 願 昭42—110216
②出 願 昭42(1967)12月29日
③考 案 者 出願人に同じ
④出 願 人 長井義幸
奈良県北葛城郡広陵町大字笠41
2の1

代 理 人 弁理士 古賀貢

(出願人において、権利譲渡または実施許諾の
用意がある)

図面の簡単な説明

本考案はかかる実施例を示すもので、第1図は
要部の側面図で一部切欠したものであり、第2図
は一部切欠した同正面図、第3図は高低の調節の
状態を示す説明図、第4図はカバーを被覆した時
の斜視図である。

考案の詳細な説明

本考案は高低の調節を可能にした枕に関するも
のである。

実施例を図面について説明すれば、2、3及び
2'、3'は中心軸1の左右両端に於いて開閉自
在に枢着された対向する二又支持杆であり、横杆
4、4'は対向する支持杆2、2'の下端と上端
をそれぞれ連結する横杆であり、5、5'は対向
する支持杆3、3'の下端と上端をそれぞれ連結
する横杆である。6は二又支持杆の上段部に装置
した復元用のバネである。7は下段中央に装置す
る高低の調節をする四角柱軸で、軸支片8、8'
で軸支され前面に高低を示す目盛板13を装着し
各軸面に適当間隔を置いて対設する一対の突起9
、9'、10、10'、11、11'、12、1
2'はそれぞれの間隔を順次狭くして設置する。
14は戻り止めで各突起の内側に装置し外方向へ起
伏可能とする。15は下段のスプリング受板でそ
の上面の中央にU溝を設け両側端に上記軸支片8
、8'の下端が固着され下面の両突縁16、16
'間にスプリング17を数条張設する。18は弾

2

力性のある合成樹脂で形成したクッションでスプ
リング受板の表面を被覆するようにして装着する
19は上段のスプリング受板で上面の突縁20、
20'間に数条のスプリング21を張設しその表
5 面に弾力性合成樹脂製のクッション22を装着す
る。23、23'は受板15と19とを連結した
バネであり、24は伸縮可能に被覆した枕カバー
である。

本考案の構成は以上の通りで、使用の一例を第
3図について説明すれば、aの状態の高さをBの
高さにするには目盛表示に従い調節軸を回転すれ
ば、バネ6の収縮により、二又支持杆の上下の連
結横杆4、5、4'、5'と突片11、11'の
係止がはずれて点線で図示するよう二又支持杆の
15 開きが縮小した後、枕に加える圧力即ちバネ23
、23'や手力で直にBの状態の開きとなり、連
結横杆は突片12、12'に係止され戻り止め14
で逆行を防止されて安定する。この際戻り止め14
は外側方向へは起伏可能であるので連結横杆の外
側方向への撓動を妨げることはない。Bの状態か
ら逆にAの状態にする場合も同様である。従つて
希望する高さの目盛に合せて枕の高低を調節す
ることができる。即寝ながら読書したり、テレビを
見る場合は最高の目盛りに合せ、安眠には最低目
25 盛にするなど四段階に調節することができる。構
造上通気性もよく、したがって衛生的であり、軽
量で取扱いにも便利であるなどの利点がある。

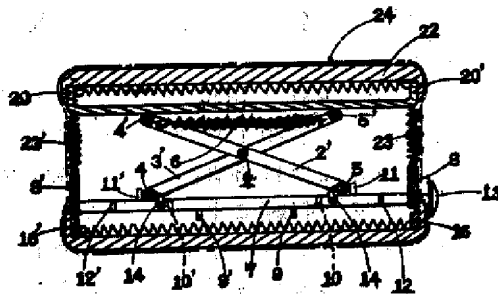
実用新案登録請求の範囲

本文に詳記した通り、中心軸1の両端に二又支
持杆2、3と2'、3'とを対向させて開閉自在
に枢着し、対向する二又支持杆の上端及び下端を
それぞれ横杆4、5、4'、5'で連結し、二又支
持杆の上段部にバネ6を装置し、軸支片8、8'
30 で軸支する四角柱状の高低調節軸7はその前面に
目盛板13を装着し該軸の各平面部に適当間隔を
置いて対設する一対の突起9、9'、10、10
'、11、11'、12、12'はそれぞれの間
隔を順次狭くして設置し、各突起の内側に外側方
35 向にのみ起伏可能な戻り止め14を装置し、上面に

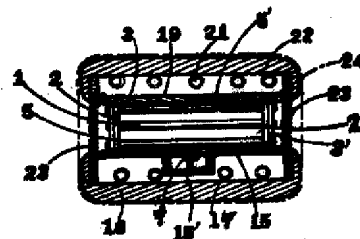
設けたU溝の両端に軸支片を定着する下段のスプリング受板15は下方方向へ突出した突縁16, 16'間にスプリング17を数条張設しその表面を弾性合成樹脂製のクッション18で被覆し上段のスプリング受板19はその上面の突縁20, 20' 5

間にスプリング21を数条張設しその表面に弾性合成樹脂製のクッション22を被覆装着し、上下の受板はバネ23, 23'で連結し、全体をカバー24で被覆して成る高さ調節を可能にした枕

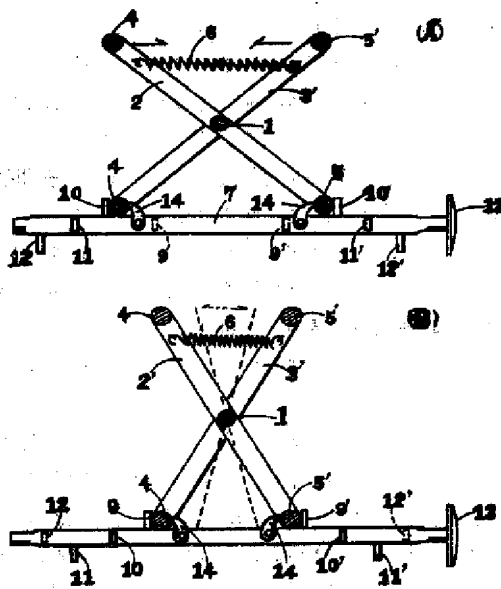
第1図



第2図



第3図



第4図

